

くすりのしおり

610451031

2011年9月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：レベトールカプセル 200mg

主成分：リバビリン（Ribavirin）

剤形：白色不透明の硬カプセル剤、長径 19.2mm

シート記載：表 921、裏レベトール、200mg、921

**この薬の作用と効果について**

この薬は、インターフェロン製剤（インターフェロンアルファ-2b、ペグインターフェロンアルファ-2b、インターフェロンベータ）や他の抗ウイルス剤との併用により C 型肝炎ウイルスが増えるのを抑え、また、体がウイルスを排除しようとするのを助け、肝臓の機能を改善させます。

通常、C 型慢性肝炎の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心疾患（心筋梗塞、心不全、不整脈など）、異常ヘモグロビン症（サラセミア、鎌状赤血球性貧血など）、腎障害、肝障害、自己免疫性肝炎、精神神経の病気またはその既往歴がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> **：医療担当者記入**
- ・ 通常、成人は体重に応じて、60kg 以下には、1日3カプセル（600mg）〔朝食後1カプセル（200mg）、夕食後2カプセル（400mg）〕、60kg を超え 80kg 以下には、1日4カプセル（800mg）〔朝食後2カプセル（400mg）、夕食後2カプセル（400mg）〕、80kg 以上には、1日5カプセル（1,000mg）〔朝食後2カプセル（400mg）、夕食後3カプセル（600mg）〕を服用しますが、年齢・症状により適宜減量または中止されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は医師または薬剤師に相談してください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 妊娠する可能性のある女性患者が飲む場合は、妊娠していないことを確認するために飲んでいない間と飲み終わってから6ヵ月間は妊娠検査を毎月1回実施してください。
- ・ 男性患者のパートナーが妊娠しているあるいは妊娠する可能性のある場合は、子宮内に精液が移行しないように飲んでいない間と飲み終わってから6ヵ月間はコンドームを使用してください。
- ・ 医師の指示を守って定期的に血液検査を行ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、倦怠感、頭痛・頭重、寒気、不眠、食欲不振、吐き気・嘔吐、関節痛、筋肉痛、腹痛、飛蚊視（蚊が飛んでいるようにみえる）、視力低下などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 階段や坂を上る時の動悸、息ぎれ、めまい〔貧血〕
- ・ のどの痛み、筋肉痛、寒気やふるえを伴って高熱が出る〔無顆粒球症、白血球減少などの血液障害〕
- ・ 不眠、不安、焦燥〔抑うつ、自殺企図、躁状態、攻撃的行動〕
- ・ 顔面蒼白、息ぎれ、立ちくらみ〔ショック〕
- ・ から咳、呼吸困難、全身倦怠感〔間質性肺炎、肺線維症、肺水腫〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

※次ページも必ずお読みください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。